

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成28年2月23日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouvoCd=2291400022-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下、職員は入居者様一人ひとりの表情、仕草、言葉などから、その方の思いを大切に、ありのままの姿に寄り添い、笑顔で安心できる声かけを心がけています。お一人お一人の状態に合わせた関わり・食事形態・レクリエーション・役割支援を行っています。また寝たきりにさせないよう、その方の体調に合わせてできる限り、フロアで楽しい雰囲気の中で過ごしていただいております。ご家族様との関係も大切に、面会時には職員と気兼ねなくゆっくりとお話していただける時間をつくっています。そして地域の方々に見守っていただきながら、外に出る機会も設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事を振り返り、着実に実行している。職員は一人ひとりの24時間シートなどから、利用者の特性を把握して安心出来る声掛けと笑顔で接している。家族との関係は運営推進会議等を活用し、面談できる機会を増やしている。地域との関わりにおいては職員と利用者でハンドベルの演奏や職員による歌やダンスの披露など、交流を深めながら見守ってもらえるよう努めている。管理者と職員の一体感や管理者の実行力が、勤続年数が長く離職のほとんどない事業所となっている。利用者との関係を継続させるため、訪問された家族や知人に、利用者が作った新聞のゴミ箱をプレゼントしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の運営理念、ふれあいグループ理念を見やすい場所に掲示。共に毎朝申し送り時に唱和し仕事に取り組んでいる。また、全体ミーティング時に必ず理念の振り返りを行っている。	理念「優しいぬくもり、本当の家であるように」を踏まえ、利用者や職員へのアンケートやヒアリング等を行っている。管理者は会議の場や掲示物等で唱和を行い、現場においても実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設や地域のお祭りに参加し交流を図っている。こちらの行事の時も、地域の方々をお招きしている。また、近所の方からは新鮮な野菜をいただいたり支えていただいている。	自治会に加入して回覧版で紹介したり、クリスマス会にゆるキャラの「すそのん」が参加している。その他にも地域のボランティアの訪問の記録がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症と向き合う会や語る会に出向き、在宅で認知症ケアをしている方のお話や悩みを聴いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	嘱託医、近隣の方々、ご家族やボランティアの方々にも参加していただいている。感想や意見をいただき、よりよい施設運営に繋がっている。	運営推進会議を楽しく行なうための仕組みが出来ていて、地域交流の場となっている。嘱託医や近隣住民・家族の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管轄の包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただき、率直な感想を聞くなどし連携をはかっている。又裾野市介護相談員の訪問も定期的であり、意見や感想をいただいている。	運営推進会議により交流を深めている。介護支援相談員や地域での民生委員のキャラバンメイト育成など、市との連携も進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵を使用している方もいらっしゃるが、ご家族の同意を得ている。建物の入り口は安全の為施錠しているが出たいという希望があれば出来るだけ静止せず、付き添いの下出ている。また拘束の研修も行っている。	安全確保のための施錠は各フロアで行なわれているが、重要事項説明書等で利用者からの同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束「ゼロ」宣言をし全職員が意識して業務についている。又職員の不注意な言動「だめ、だって、でも、ちょっと待って」などの言葉の抑制も虐待になることをスタッフに伝え、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは制度について研修等で学んでいる。新たに、成年後見制度を利用されている方が入居された。その方との連携を密にとっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書類、重要事項等の読み合わせをし、説明、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある時は、充分説明し、その解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において入居者様、ご家族、地域の方々、包括支援センターの方、現場スタッフの参加で意見交換している。又玄関にご意見箱を設置、ご家族の要望、苦情を言いやすい環境をつくっている。	運営推進会議の活用が順調に機能している。個別に家族からの面談を行い、利用者の状態の報告を行なっている。	苦情や相談等は運営推進会議や家族との面談時に報告している。契約書の見直しに着手する事が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回スマイルマネジメントと称するアンケートを行い、心身の状態や悩みを把握し、管理者がヒヤリングしている。また管理者、リーダー、職員同士で、意見を言いやすい関係を築いている。	職員にアンケート調査や面談を行ったり、自由な発言が出来るように工夫されている。ここ数年は離職率も低く、安定した経営が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。その結果を必ずフィードバックし、意見交換。やれば必ず評価してもらえ、やりがいのある、働きやすい環境がつかれるように配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職位に応じた研修や全職員向けの研修が定期的開催されている。管理者は参加できるよう勤務を考慮している。又社外研修の情報も提供、積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネは月1回の地域調整会議に出席。管理者が毎月、情報誌を持って訪問し情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を把握し、アセスメントをスタッフで共有している。ご本人の変化、言語だけでなく態度・仕草からも観察し、寄り添い、傾聴を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を共有し、ご家族の不安や要望を傾聴。ご家族が何でも言いやすい雰囲気づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の的確な状況判断と、優先順位の把握をし、ご家族、嘱託医とも相談しながら福祉用具の導入等も考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来ること、出来ないことの把握をし、その方に合った役割を見つけ、無理のないよう職員と一緒に行動している。又やっていたことには感謝の気持ちを心から伝えるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事を催したり、誕生会にもご家族に参加していただき、一緒にお祝いしている。面会時には、利用者様の様子を細かく報告し、安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	独居で高齢のご家族の面会支援をおこなっている。また職員が仲立ちし楽しい時間が過ごせるよう支援している。	生活を支援してくれる地域の方達との交流が新たな関係に繋がっている。地域の敬老会等での新たな関係作りは子供達にも繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握、スムーズに関われるよう職員が中に入り、皆が仲良く支えあっている関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	嘱託医と連携しながら出来る限り、グループホームでの支援を行います。また亡くなられた方の一周忌には自宅へお花を届けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアする側の思い込みにならないよう、本人の発言やしぐさを、24時間シート等を使用し丁寧に観察し、思いや意向に気づくようにしている。	24時間シートは心身の改善を目的に活用されているが、夜間記録から本人の真意が推測されることが多い。日常会話や表情のくみ取り・家族への聞き合せなど、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネからの情報はもちろんのこと、ご家族から丁寧に話をうかがったり、センター方式の様式を使用し把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態は個人記録に詳細に記入している。ケアスタッフが本人の持っている強さに気づく目を持ち、強さを生活に活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきを下に入居者様が、何が出来るか何がしたいかを把握し、どうすれば出来るかを話し合っている。	介護計画の目標達成期間を短期3ヶ月、長期6ヶ月を原則としているが、必要に応じた計画の変更も行っている。本人と家族の思いや意向に添った介護計画からモニタリングに至るまでの一連した取り組みが確認出来る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入した記録を丁寧に確認し、それを下に朝・夕の申し送りにて、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方にも、運営推進会議や施設行事に参加していただいています。また地域の方の手芸や趣味活動の発表の場となって、入居者様も一緒に楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報、地域の回覧を活用している。その情報をもとに行事に参加している。また、ハーモニカ、手芸、車いすダンス、傾聴ボランティア等、地域ボランティアの導入をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な嘱託医往診。その他眼科、耳鼻科、皮膚科等、ご家族の希望があれば、嘱託医より紹介状をいただき受診対応している。	本人と家族の同意を得て、全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている。歯科検診や口腔指導・内科検診・服薬処方などの定期往診と通院同行もある。医師との連携が築かれた適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの健康状態を把握し、看護師が訪問したときはそれを的確に伝え、適切な看護が受けられるようにしている。緊急時には24時間体制で連絡対応が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできるだけ面会を行い、関係の継続を図っている。嘱託医、医療機関のソーシャルワーカーとも話し合いをしながら、可能な限り住み慣れた施設で生活できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生前の事前確認書は定期的に確認している。また体調の変化があった場合や終末期には、Dr.、ご家族、施設側との話し合いを行っている。看取りマニュアルも作成済み。看取り後の職員のフォローとして、デスクカンファレンスを行っている。	重度化や看取りの対応マニュアルの原案が作成され、見直しの段階に至っている。また、完成されたマニュアルを全職員が周知・共有し、緊急時に適切かつ俊敏な行動が取れる取り組みが今後への課題となる。	重度化と看取りのマニュアルの完成に伴ない、緊急時対応の簡素化したマニュアルの作成も望みたい。職全職員の周知・共有と、的確な対応への更なる取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にはすぐに嘱託医に連絡がとれる体制、夜間は管理者、リーダーがすぐ駆けつけられる体制になっている。また、常に応急手当や初期対応の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練、二ヶ月に一回災害時伝言ダイヤル訓練を行っている。また地域防災訓練への参加もしている。全社で「安否コールシステム」を導入。緊急時には全職員に情報共有・協力できる体制になっている。	事業所内の緊急時対応や消防署の指導と協力体制・地域との共助体制を整えている。地域特有の自然災害としては、黄瀬川の氾濫を想定した取り組みもある。近隣者への避難場所提供も働きかけ、共助体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の言葉かけで接するようにし、名前の呼び方についても充分注意しているが、ご家族の了解の下、馴染みの呼び方をさせていただいている場合もある。	利用者と家族の承諾を得て、個人名や写真などの展示や掲載をしている。個人情報に関する書類は書庫にて施錠保管している。また、職員の語りかけや所作からも、利用者の人格や誇りを損ねない取り組みが見て取れる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望や自己決定を尊重している。言いやすい雰囲気作り、どちらが良いか選択できるように働きかけている。又思いを伝えられない方には表情や仕草を観察し思いを推察するよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力、季節やお天気も考慮し、無理強いしないで一人ひとりのペースに応じた過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問美容院にてカット。ご本人、ご家族の思いを大切におしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、色合い、季節を感じることで出来る食材を選び、提供している。近所、ご家族からいただいた食材で調理、提供することもある。	季節ごとに芽吹く頂き物の食材が調理され、話題と共に食卓に上がる。料理の盛り付けや味付け・形状に食意を損ねない気遣いがあり、利用者のにこやかな表情からも楽しむ食事への配慮が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を充分確保できるよう、お好みのものを提供している。また食事量のチェック、形態にも配慮している。食思の低下した方には、ご本人のペースに合わせて食べたいものを食べたい時にとれるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。週に1回、歯科衛生士の訪問があり、専門的に口腔内チェック、義歯の状態チェック、口腔体操等をしている。又歯科医師の往診も定期的におこなわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の表情や仕草を丁寧に観察し、一人ひとりに合った声かけ誘導、また自尊心を傷つけないケアを心がける。	声掛けや誘導は極力避け、待つ姿勢を実践している。排泄と排泄介助が困難だった利用者の自己意識や自己行動に働きかけ、紙パンツから布製のパンツに転じている事例もある。排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態を確認し、水分強化したり、運動強化したりしながら、服薬も調整している。薬に頼らず食材の工夫、バナナ、牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖などで自然排便ができるよう考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、個々のペースに合わせて丁寧に支援を行っている。また重度化しても職員2名で対応し、安全に入浴できるように支援している。体調に応じて入浴できない方には、清拭・足浴・手浴を行っている。	手浴は感染予防面でも重要視し、頻繁に行なわれている。また、浴槽を跨ぐのが困難な利用者には椅子や床に滑り止めを使用している。清拭や足浴・手浴を組み入れ、個々に沿った安全で快適な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに応じて午睡や休息をとっていただいている。又快適な安眠や休息が出来るよう居室内の温度調整、清潔なりネン提供を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には、囑託医から内服の効能・副作用の説明を受けている。また職員は個人の服薬を把握し、服薬が変更した場合には、よく観察し副作用が強い場合には、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の関わりの中で、その方に合った出来ること、楽しめることを探していき職員と一緒にやっていく。また、その方の生活歴に応じた趣味や楽しみを共有する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は出来るだけ外に出て体操、レク、近所の散歩をしている。また、気分展開にドライブやおやつ外出もおこなっている。	川沿いや近隣を散歩する時は、町内の人の好意的な見守りや声掛けなどがある。家族・ボランティアの協力も得て、高原ビールやハンバーガーショップ・コンビニエンスストアへの外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいない。必要に応じてご家族に連絡し、購入していたり、立て替え金にてこちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話をかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、不快な匂いがないように空気の入れ替えを行っている。入浴が楽しみになるよう、浴室にはお花や観葉植物を飾っています。	玄関や廊下・居間兼食堂などの壁面には、写真や技巧が施された折り紙・貼り絵・絵画等々が、また踊り場には寄贈された豪華な雑飾も飾られている。足元の危険物は排除され、清楚に整えられている。居心地良く楽しく暮らせる工夫が随所に見て取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席については入居者様の気分や状態により、自由に座ることができます。またリビング以外にも、その方が落ち着ける場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が居心地良く過ごせる空間や、ご家族や孫の写真を貼って安心して過ごせる空間づくりを行っています。	ぬいぐるみや写真・姿見・浅草の羽子板などが個々に飾られている。また、机上の書籍や古風で豪華な仏壇などに、住む人の人柄と過去が彷彿される。一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段には手すりがあり、自由に行き来できるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成28年2月23日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2291400022-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員も笑顔で、いつでも気軽に面会に来ていただいたり、立ち寄っていただけるような雰囲気作りを心がけています。入居者様の今持っている力や出来ることを大切にレクや手芸を行っています。また、季節に応じた作品を職員と一緒に作りフロアに飾り、ご家族様やお客様に喜んでいただいております。楽しみの一つである食事は、職員の手作りで匂いや音を感じていただき、温かく家庭的な時間を工夫しています。ご本人、ご家族様のご希望があれば、住み慣れた環境で最期まで、ご家族や職員に見守られながら安楽に過ごしていただけるよう、職員も研修を重ねながら、きめ細やかなケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の運営理念、ふれあいグループ理念を見やすい場所に掲示。共に毎朝申し送り時に唱和し仕事に取り組んでいる。また、全体ミーティング時に必ず理念の振り返りを行っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設や地域のお祭りに参加し交流を図っている。こちらの行事の時も、地域の方々をお招きしている。また、近所の方からは新鮮な野菜をいただいたり支えていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症と向き合う会や語る会に出向き、在宅で認知症ケアをしている方のお話や悩みを聴いている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	嘱託医、近隣の方々、ご家族やボランティアの方々にも参加していただいている。感想や意見をいただき、よりよい施設運営に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただき、率直な感想を聞くなどし連携をはかっている。又裾野市介護相談員の訪問も定期的であり、意見や感想をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵を使用してる方もいらっしゃるが、ご家族の同意を得ている。建物の入り口は安全のため施錠しているが出たいという希望がある時は出来るだけ静止せず、付き添いの下出ている。また拘束の研修も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束「ゼロ」宣言をし全職員が意識して業務についている。又職員の不注意な言動「だめ、だって、でも、ちょっと待って」などの言葉の抑制も虐待になることをスタッフに伝え、注意している。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは研修等で制度について学んでいるが、現在は対象になる方がいない。今後は職員も研修等で学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書類、重要事項等の読みあわせをおこない、説明、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある時は充分説明し、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、入居者様、ご家族、地域の方々、包括支援センターの方、現場スタッフの参加で意見交換している。又玄関にご意見箱を設けご家族の要望・苦情等を表わしやすい環境をつくっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回スマイルマネジメントと称するアンケートを行い、心身の状態や悩みを把握し、管理者がヒヤリングしている。また管理者、リーダー、職員同士で、意見を言いやすい関係を築いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。その結果をフィードバックし意見交換。やれば必ず評価してもらえ、やりがいのある働きやすい環境がつけられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職位に応じた研修や全職員向けの研修を定期的に開催。管理者は順番に参加できるよう勤務に配慮している。社外研修の情報も提供し積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネは月1回の地域調整会議に出席。管理者が毎月、情報誌を持って訪問し情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活歴を大切に、アセスメントをスタッフで共有している。又言葉からの訴えばかりでなく、表情や仕草からもその方の訴えをくみ取れるよう観察し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を共有し、ご家族の不安や要望を傾聴。ご家族が何でも言いやすい雰囲気づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の的確な状況判断と、優先順位の把握をし、ご家族、嘱託医とも相談しながら福祉用具の導入等も考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来ること、出来ないことの把握をし、無理強いせず、その時の体調や気分を見ながら、家事や掃除などの役割を持っていただき職員は寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事を催したり、誕生会にもご家族に参加していただき、一緒にお祝いしている。面会時には、利用者様の様子を細かく報告し、安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。入居者様が散歩途中に、お孫様の家やお姉様の家に立ち寄りお話をして過ごすこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お天気の良い日は両フロア合同で外でお茶を飲んだり、体操したり、レクを楽しんでいる。皆が仲良く支え合っているよう、職員が中に入り関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	嘱託医と連携しながら出来る限り、グループホームでの支援を行います。やむを得ず転居される場合にはホームでの情報を提供している。また亡くなられた方の一周忌には自宅へお花を届けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアする側の思い込みにならないよう、本人の発言やしぐさを24時間シートを使用し丁寧に観察し、思いや意向に気づくようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネからの情報はもちろんのこと、ご家族から丁寧に話をうかがったり、センター方式の様式を使用し把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態は個人記録に詳細に記入している。ケアスタッフが本人の持っている強さに気づく目を持ち、強さを生活に活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきを下に入居者様が、何が出来るか何がしたいかを把握し、どうすれば出来るかを話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入した記録を丁寧に確認し、それを下に朝・夕の申し送りにて、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方にも、運営推進会議や施設行事に参加していただいています。また地域の方の手芸や趣味活動の発表の場となって、入居者様も一緒に楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報、地域の回覧を活用している。その情報をもとに行事に参加している。また、ハーモニカ、手芸、車いすダンス等、地域ボランティアの導入をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な嘱託医往診。その他眼科、耳鼻科、皮膚科等、ご家族の希望があれば、嘱託医より紹介状をいただき受診対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の入居者の健康状態の把握をし、グループホーム訪問看護師、嘱託医看護師に的確に伝え、適切な看護が受けられるようにしている。緊急時には24時間体制で連絡対応が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできるだけ面会を行い、関係の継続を図っている。嘱託医、医療機関のソーシャルワーカーとも話し合いをしながら、可能な限り住み慣れた施設で生活出できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生前の事前確認書は定期的に確認している。また体調の変化があった場合や終末期には、Dr.、ご家族、施設側との話し合いを行っている。看取りマニュアルも作成済み。看取り後の職員のフォローとして、デスクカンファレンスを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にはすぐに嘱託医に連絡がとれる体制、夜間は管理者、リーダーがすぐ駆けつけられる体制になっている。また、常に応急手当や初期対応の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練、二ヶ月に一回災害時伝言ダイヤル訓練を行っている。また地域防災訓練への参加もしている。全社で「安否コールシステム」を導入。緊急時には全職員に情報共有・協力できる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩であるということをお頭に置き、支援をおこなうよう努めているが、ご家族の了解の下、馴染みの呼び方をさせていただいている場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を日頃から職員に伝えるよう、信頼関係を築き、言いやすい雰囲気作りをしている。又こちらからの押し付けではなく自己決定できるような声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力、季節やお天気も考慮し、一人ひとりのペースに応じた過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問美容院にてカット。ご本人、ご家族の思いを大切におしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、色合い、季節を感じることで出来る食材を選び、提供している。近所、ご家族からいただいた食材で調理、提供することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水にならないよう水分量チェック、嚥下の悪い方にはゼリーで水分補給等、一人ひとりの状態に合わせた食事支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをおこなっている。自分のできる方は仕上げを手伝っている。必要に応じて歯科医師の往診、週1回歯科衛生士による口腔ケア、口腔体操、その方に合った口腔ケアの方法を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の表情や仕草を丁寧に観察し、一人ひとりに合った声かけ誘導、また自尊心を傷つけないケアを心がける。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態を確認し、水分強化したり、運動強化したりしながら、服薬も調整している。薬に頼らず食材の工夫、バナナ、牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖などで自然排便ができるよう考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、個々のペースに合わせて時間をかけ、丁寧に支援を行っている。また、重度化しても職員二名で対応し、安全に入浴できるように支援している。体調に応じて入浴できない方には、清拭・足浴・手浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに応じて午睡や休息をとっていただいている。又、快適な安眠や休息ができるよう居室内の温度調整、清潔なりネン提供を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には、囑託医から内服の効能・副作用の説明を受けている。また職員は個人の服薬を把握し、服薬が変更した場合には、よく観察し副作用が強い場合には、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の関わりの中で、その方に合った出来ること、楽しめることを探していき職員と一緒にやっていく。また、その方の生活歴に応じた趣味や楽しみを共有する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は出来るだけ外に出て体操、レク、近所の散歩をしている。また、気分展開にドライブやおやつ外出もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持することはないが、ないことに不安になる方には、ご本人やご家族の希望により持っていただき、安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、職員が仲立ちして電話をかけることも出来ます。また、遠くに住むご家族に手紙を書き、職員と一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、不快な臭いがないよう、空気の入替えをしている。外出したときの写真や、一緒に作成した作品や季節に応じた壁画をフロアに飾り、馴染みの空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、気の合った同士がお話したり、テレビを観たり、歌謡曲のDVDを観て唄っている。踊り場にはテーブルを置き、いつでもお茶を飲んだり、お話しできるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が居心地良く過ごせる空間や、ご家族の写真を飾ったりテレビを置いたりし、安心して過ごせる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室前には名前を掲示し目印もつけ、トイレや風呂の表示や矢印により間違えることのないよう工夫している。1階に降りる際には階段が危険のため柵をしているが、自由に行き来ができています。		